

令和元年 11 月 5 日

各位

一般社団法人全国銀行資金決済ネットワーク

第 7 次全銀システムの稼働について

昨日稼働した第 7 次全国銀行データ通信システム（全銀システム）のモアタイムシステムに引続き、本日、コアタイムシステムも無事稼働いたしました。

全銀システムは、日本国内の金融機関をオンラインで接続し、銀行振込等の為替取引に関するデータを集中的に処理しているセントラルシステムであり、一般社団法人全国銀行資金決済ネットワーク（理事長：岩本秀治）が運営しています。

全銀システムは、昭和 48 年の稼働以来、取扱量や接続先の増加、技術革新への対応等の観点から、概ね 8 年毎にシステム更改を行っており、今回は第 7 次システムにあたります。

第 7 次全銀システムでは、第 6 次全銀システムの機能・構成を継承しつつ、安全性・信頼性向上の観点から、収容能力・処理能力の増強、サイバーセキュリティ対策の強化および電力消費量の削減などを図っています。

当法人は、銀行振込等を取り扱う社会インフラの運営者としての責任を再認識し、システムの安定稼働を最優先としながら、引き続きお客さまや金融機関のニーズを踏まえて、決済システムの高度化・効率化等に取り組んで参ります。

以上

第7次全銀システムと第6次全銀システムとの比較

変更点	第7次全銀システム	第6次全銀システム
1. 収容能力の増強※	3,000 万件/1 営業日・片センター (20%増加)	2,500 万件/1 営業日・片センター
2. 処理能力の増強※	600 万件/時・両センター (20%増加)	500 万件/時・両センター
3. 電力消費量の削減※ (機器の省電力化)	1,061 kVA (35%削減)	1,630 kVA
4. サイバーセキュリティ 対策の強化	不正通信の検知、遮断機能の 強化等、新たなセキュリティ 対策の追加実施	通信経路制御、ファイアウォ ールによる対策等の実施
5. 業務継続体制の強化	大阪センターへの担保管理 システムの導入	/

※いずれもコアタイムシステムベース

(全国銀行内国為替制度の現況)

加盟金融機関 (令和元年10月末現在)	金融機関数	1,230 行
	店舗数	30,917 店舗
平成30年度の為替取扱高※	取扱件数	16 億 5,463 万件
	(1日平均)	約 678 万件
	取扱金額	3,001 兆円
	(1日平均)	約 12 兆 2,982 億円

※テレ為替取扱高+新ファイル転送の文書為替・給与振込等

以上